

みずほマーケット・トピック(2020年12月25日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。本日発行の『中期為替相場見通し』をご参照下さい。

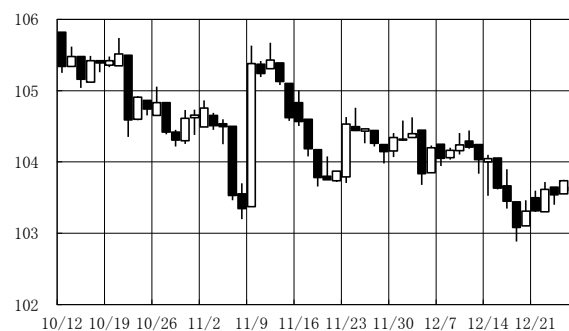
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・ 今週のドル/円相場は揉み合う展開。週初 21 日、103 円台半ばでオープンしたドル/円は、日経平均株価の下落に伴い一時週安値となる 103.26 円をつけたが、海外時間では新型コロナウイルスの変異種拡大を受けてリスクオフのドル買いが進み、一時週高値の 103.89 円まで上昇。しかし流れは続かず、株価の反発や利益確定のドル売りもあいまって、ドル/円は 103 円台前半に押し戻された。22 日は、欧州通貨に対するドルの買い戻しや、米 11 月コンファレンスボード消費者信頼感指数が予想を下回ったことを受けてリスクオフのドル買いが進み、ドル/円は、103 円台後半まで上昇。翌 23 日は、米新規失業保険申請件数や米 11 月耐久財受注などの強弱入り混じる結果に、ドル/円は 103 円台半ばを挟んで小動きとなった。24 日、英国と EU の通商協定が大筋合意と発表されると、ドル/円は 103 円台後半まで値を上げた。だが、その後はクリスマス休暇で薄商いの中、動意薄い地合いに。本日もドル/円は、103 円半ばから後半にかけての小動きが続いている。
- ・ 今週のユーロ/ドル相場も揉み合う展開。週初 21 日、1.22 台前半でオープンしたユーロ/ドルは、英国で新型コロナウイルスの変異種が発見され、ロックダウンへの懸念が台頭する中、欧州株安やポンド/ドル下落に圧迫され、一時週安値となる 1.2130 まで下落したが、リスクオフの流れが一巡すると、1.21 台後半まで反発した。22 日は、ユーロの押し目買いや米株価先物の下げ幅縮小を意識したドル売りに、ユーロ/ドルは、一時週高値となる 1.2257 をつけたが、買い一巡後は特段材料のない中、1.21 台後半までじりじりと下落した。23 日は、英国と EU が通商交渉で合意に近づいているとの報道に、ユーロ/ドルは 1.22 台前半まで急伸したが、合意内容を巡る不透明感も燃る中、1.21 台後半まで反落した。24 日、ついに英国と EU が通商協議で大筋合意との報道に、ポンド/ドルの上昇にユーロ/ドルも 1.22 台前半まで連れ高になった。しかしクリスマス休暇で取引は閑散とする中、追加材料に乏しくユーロ/ドルは上値の重い値動きとなった。本日にかけて、ユーロ/ドルは 1.21 台後半での取引となっている。

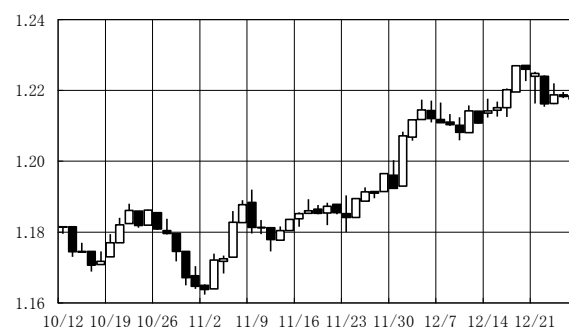
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		12/18(Fri)	12/21(Mon)	12/22(Tue)	12/23(Wed)	12/24(Thu)
ドル/円	東京9:00	103.16	103.48	103.34	103.53	103.54
	High	103.59	103.89	103.73	103.65	103.76
	Low	103.09	103.26	103.30	103.36	103.50
	NY 17:00	103.31	103.32	103.62	103.54	103.74
ユーロ/ドル	東京9:00	1.2261	1.2212	1.2235	1.2186	1.2196
	High	1.2273	1.2253	1.2257	1.2220	1.2216
	Low	1.2226	1.2130	1.2152	1.2155	1.2178
	NY 17:00	1.2260	1.2248	1.2162	1.2187	1.2183
ユーロ/円	東京9:00	126.50	126.34	126.42	126.14	126.38
	High	127.01	126.60	126.62	126.37	126.50
	Low	126.41	125.92	126.00	125.95	126.29
	NY 17:00	126.58	126.41	126.03	126.13	126.30
日経平均株価		26,763.39	26,714.42	26,436.39	26,524.79	26,668.35
TOPIX		1,793.24	1,789.05	1,761.12	1,765.21	1,774.27
NYダウ工業株30種平均		30,179.05	30,216.45	30,015.51	30,129.83	30,199.87
NASDAQ		12,755.64	12,742.52	12,807.92	12,771.11	12,804.73
日本10年債		0.01%	0.01%	0.01%	0.01%	0.01%
米国10年債		0.94%	0.93%	0.92%	0.94%	0.92%
原油価格(WTI)		49.24	47.97	47.02	48.12	48.23
金(NY)		1,888.90	1,882.80	1,870.30	1,878.10	1,883.20

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、年内最終週となるため、大きな政治・経済イベントは予定されていない。翌1月3日週には、5日(火)にISM製造業景気指数が、7日(木)には、FOMC議事要旨(12月会合分)とISM非製造業景気指数が公表される。また、8日(金)には、12月雇用統計の発表を控えている。11月に非農業部門の就業者数の伸びが鈍化したことや、12月に入り、新規失業保険申請件数が増加傾向にあることから労働環境の冷え込みの懸念が高まっている。
- 欧州では、31日(木)が英国のEU離脱後の移行期間終了日となっている。24日、英国とEUはFTAなど将来関係を巡る交渉で合意した。これによって、年末までに双方が議会での承認や暫定適用の手続きを済ませれば、年明けからの経済活動の混乱は回避されるかたちとなる。報道によれば、英議会は30日に協定案批准に関しての採決が執り行われる。英議会でもFTAなしを回避したい思惑から、英国とEUの合意案は批准される見通しとなっている。一方、欧州議会は通商協定の是非を問う採決に十分な時間が取れないと判断しており、混乱を避けるために年初からの前提適用を受け入れる方針を示している。
- 本邦では、28日(月)に、日銀金融政策決定会合における主な意見(12月会合分)が公表予定である。12月会合では金融緩和を継続することが決定し、企業の資金繰り支援策を2021年9月末まで再度延ばすことを決定した。加えて、新型コロナウイルスによる景気悪化で物価は一段と弱含む状況にあり、中長期的な2%物価上昇目標の達成を見据え、より効果的で持続的な金融緩和を実施するための点検を実施する方針を示した。黒田日銀総裁は会見で金融政策の枠組みを変更する必要はないとしながらも、点検の結果を21年3月の決定会合を目処に公表すると述べた。大規模な金融緩和を継続する一方で、デフレは常態化しており、日銀の次の一手を見据える上では具体的な点検内容とその内容に関する政策会合メンバーの見解が注目点となりそうだ。

	本 邦	海 外
12月25日(金)	・11月失業率/有効求人倍率 ・11月小売売上高	
28日(月)	日銀金融政策決定会合 主な意見 (12月分)	・米12月ダラス連銀製造業活動指数
29日(火)		
30日(水)	・東証大納会	・米11月中古住宅販売仮契約件数
31日(木)		・英国のEU離脱後の移行期間終了日
1月1日(金)		

【当面の主要行事日程(2021年1月～)】

日銀金融政策決定会合 (1月20～21日、3月18～19日、4月26～27日)

ECB政策理事会 (1月21日、3月11日、4月22日)

FOMC (1月26～27日、3月16～17日、4月27～28日)

市場営業部・金融市場部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2020年12月24日	やっぱり狭かったドル/円の値幅～3つの背景～
2020年12月23日	期待指数に薄日も差し込んできた米消費者マインド
2020年12月21日	2021年も続く「金融市場と実体経済の乖離」
2020年12月18日	週末版(為替政策報告書を受けて～垣間見える「まだ、ドル高」の本音～)
2020年12月17日	FOMCを終えて～約束された「金利差なき世界」～
2020年12月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年11月分)
2020年12月15日	イエレンタッシュボードで見る米雇用の現状
2020年12月14日	ドル安の裏側には何があるのか?～元、ユーロの存在～
2020年12月11日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「中途半端」でユーロ高抑制できず～)
2020年12月10日	「イエレン次期財務長官と為替」というテーマ
2020年12月8日	前門のプレグジット、後門の次年度予算
2020年12月7日	米労働市場の抱える怖さ～長期失業者の増加～
2020年12月4日	週末版(FRBが直面するインフレ期待上昇～2021年の政策運営に影響必至か?～)
2020年12月2日	過去に類例のない物価低迷に直面するユーロ圏
2020年12月1日	実質金利とドル/円相場にまつわる議論について
2020年11月27日	週末版(緩和の「収穫減」に触れたECB～やればやるほど意味が薄れるリスク～)
2020年11月25日	拡大し続ける実体経済と金融市場の距離感
2020年11月24日	ECBの振りかざす「2段階アプローチ」とは
2020年11月20日	週末版(「円高ではなくドル安」という葛藤～日本の政治・経済にとってのリスク～)
2020年11月18日	側近退場後のジョンソン政権とプレグジット交渉の行方
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年10月分)
2020年11月17日	日米欧三極の成長率～急落と急騰の先にあるもの～
2020年11月16日	ワクチン報道はゲームチェンジャーになったのか?
2020年11月13日	週末版
2020年11月12日	結局、解消されていないユーロ高～「量」の無力～
2020年11月11日	円高・ドル安予想を修正する必要があるのか?
2020年11月10日	アフターコロナ&アフターランプに沸く金融市場の整理
2020年11月6日	週末版
2020年10月30日	週末版(ECB政策理事会を終えて～ラガルド就任、1周年～)
2020年10月29日	ECB政策理事会プレビュー～求められる緩和と仕事～
2020年10月27日	中銀は環境に貢献すべきか?～ESG全盛の中で～
2020年10月26日	解せないバイデントレード～米金利とドルの逆相関～
2020年10月23日	週末版(2020年、どのような通貨が評価されているのか?～年初来の対ドル変化率を振り返って～)
2020年10月22日	続・プレグジット Q&A～首脳会議で深まった「溝」～
2020年10月20日	IMF秋季世界経済見通し改定の見えるリスクシナリオ
2020年10月19日	過去最悪の米財政赤字とIMF「財政報告」
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年9月分)
2020年10月16日	週末版(この状況でも底堅いユーロ相場～IMF最新見通しでも欧米成長率格差は過去最大～)
2020年10月15日	「ミニ合意」騒動とEU首脳会議の行方
2020年10月14日	元高の背景を整理～バイデントレードに加え金利と需給～
2020年10月13日	米大統領選挙に対する市場思惑をどう整理すべきか?
2020年10月9日	週末版(ECB政策理事会議事要旨(9月8～9日開催分)～露骨なユーロ高けん制の実情～)
2020年10月8日	深刻さを帯びてきたユーロ圏の物価情勢
2020年10月6日	プレグジットQ&A～現状と展望のための6つの論点～
2020年10月5日	バイデントレードとは何か?～元買い、ペソ買い、株売り～
2020年10月2日	週末版(日銀短観(9月調査)を受けて～業況改善の裏で進む業績悪化と不安な設備投資～)
2020年10月1日	米株高と企業収益、そして恒常所得の関係
2020年9月29日	日米欧で最大になったECBバランスシート
2020年9月28日	「民間部門の貯蓄過剰」で低体温化する経済
2020年9月25日	週末版
2020年9月24日	為替市場を規定するユーロの値動き
2020年9月23日	越冬リスクという論点～安全資産「金」の薄さ～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年8月分)
2020年9月18日	週末版(通貨高に苦しむECB～通貨政策化する金融政策～)
2020年9月17日	FOMCを終えて～日銀に似てきた情報発信
2020年9月15日	アベノミクスからスガノミクスへ～マクロ政策からミクロ政策へ～
2020年9月14日	マネー急増から何を読むべきか～「インフレの芽」なのか?～
2020年9月11日	週末版(ECB政策理事会について～実感する「ECBの日銀化」と「ユーロの円化」～)
2020年9月9日	過去の後退局面と何が異なるのか?～米雇用の深手～
2020年9月8日	ECB政策理事会プレビュー～ユーロ高けん制に動くか～
2020年9月7日	米8月雇用統計から何を読むか～「宿泊・飲食」の深手～
2020年9月4日	週末版
2020年9月3日	アベノミクス総括その②～なぜ円安になったのかを知るべき～
2020年9月2日	「真のリスクオフ通貨」になれるかの瀬戸際～試されるユーロ～
2020年9月1日	アベノミクス総括～「金融政策の無効性」という「地味な偉業」～
2020年8月28日	週末版(FRB戦略見直しとパウエル講演について～「アベレージ・ターゲット」という現状追認～)
2020年8月26日	腰折れたままの米消費者マインド～株価に連動しない誤算～
2020年8月24日	ECB政策理事会議事要旨～PEPP「全部使う」が公式見解～
2020年8月21日	週末版(FOMC議事要旨を受けて～ほぼ完全に否定された米国版YCC～)
2020年8月20日	米大統領選挙・議会選挙と為替市場の関係について
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年7月分)
2020年8月18日	「ドル化した世界」におけるドル相場の限界
2020年8月17日	ECBの資産購入運営の現状～PSPPとPEPPの乖離～
2020年8月14日	週末版(ユーロ/ドルは購買力平価(PPP)に向かっているのか?～「1.20」台復帰を目指して～)
2020年8月12日	2020年上半期の円の基礎的需給環境について
2020年8月11日	全てを押し上げているのは実質マイナス金利なのか?
2020年8月7日	週末版
2020年8月4日	米製造業マインドよりも心配な米消費者マインド
2020年8月3日	「ユーロにあって円に無いもの」～基軸通貨性を考える～
2020年7月31日	週末版
2020年7月28日	「ドル売りの受け皿」がテーマ～過去最大の欧米逆転～
2020年7月27日	ユーロ上昇の理由～金利差縮小よりドル過剰感～
2020年7月22日	週末版
2020年7月21日	欧州銀行の貸出態度調査～ロックダウンの深手～
2020年7月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年6月分)
	臨時EU首脳会議で透けて見えた「第三の亀裂」
2020年7月17日	週末版(ECB政策理事会を終えて～PEPPは使い切り、「2つの機能」に向けて～)
2020年7月16日	ユーロ相場の近況について～上昇の瀬戸際～
2020年7月15日	臨時EU首脳会議～交錯する「2人の議長」～